

第1回「学会事故調」 議事概要

日時：2012年8月21日(火) 13:30～16:00

場所：3 東洋海事ビル会議室

出席者：

(委員) 田中(知) 委員長、田中(隆)、木村、奈良林、越塚、平野、岡本、横山、井上、小川、大場、宮野、河井、中島(健)、山中、林道、新堀、片岡、高橋、佐相、佐田、諸葛、阿部、青木、中島(憲)、内田、本間、山野、藤巻、久野
(オブザーバー) 野村会長、池本、澤田、山本
(事務局) 荒井、富田

議事概要：

1. 田中委員長挨拶

2. 調査委員会の設置目的及び運営方針について

(1) 目的

- 以下の観点から目的を修正する。
 - ▶ 学会本体の基本的な活動目的を記載する案も提示されたが、調査委員会の目的に絞ることとする。
 - ▶ すでに原子力災害が発生したことを踏まえるとともに、高次の安全確立もリスクゼロではないことが伝わる表現にする。
 - ▶ 学会自身はもちろん、原子力界全体の組織的・社会的問題も調査対象であることを明記する。
 - ▶ 事故後の活動(収束と回復)も含めることが必要。

(2) 体制等

- 学会の組織を挙げて各専門分野の知見を多角的・総合的に事故調査に反映させる観点から、原子力の専門分野毎に設けられている部会等の体制を積極的に活用する。
- 委員は、委員会の一員として報告書全体のとりまとめと執筆の責任を持つ。同時に、委員は部会等の成果を委員会に提示し説明する役割(リエゾン)も担う。
- 報告書の検討・取りまとめにおいては、学会の行動指針、倫理規程を十分に踏まえる。

(3) 情報公開

- 委員会の審議の論点や結果、成果は、年2回の学会の年会や大会において報告する。また、必要に応じて、適宜セミナーや公開の討論会を開催し、公開での討論、意見交換を行う。
- 委員会の議事概要を作成し公開する。
- 学会事故調の独立性を確保するとともに、各委員が専門家として自由な議論を行う観点から、委員会は、原則、非公開とする。

3. これまでの学会の活動

- 東京電力福島第一原子力発電所事故以降の「原子力安全」調査専門委員会を始めとする学会の活動について確認を行った。

4. 検討項目

- 部会等が行う検討内容も踏まえ、調査委員会の検討項目について議論した。

5. スケジュール

- 報告書案について、2013年後半に、海外の原子力学会にピアレビューを依頼するとともに、公開のシンポジウムを開催する。
- 2013年末までに報告書を取りまとめて、公表する。